

第39回夏季大学「新しい気象学」開講のお知らせ～台風・集中豪雨～

教育と普及委員会

主催：日本気象学会

後援：気象庁，日本地学教育学会，(財)気象業務支援センター，日本気象予報士会

日本気象学会は，最新の気象学の普及を目指して，小・中・高等学校の先生方と気象を学ばれている学生や一般の方を対象とした講座を，毎年夏休みの時期に開催しています。

今年は，「台風・集中豪雨」をテーマに取り上げます。平成16年は，これまでの記録を大きく上回る10個もの台風が日本に上陸しました。また，新潟県や福井県などでは集中豪雨が発生し，大きな被害をもたらすなど，全国的に気象災害が多発しました。このような1年を振り返り，台風や集中豪雨について様々な角度から検証していきます。

○開催日程

平成17年8月5日（金）から8月7日（日）までの3日間，初日9時から受付開始

なお，講義とその内容につきましては，次ページの講義時間表をご覧ください。

○講義会場

気象庁講堂（東京都千代田区大手町1-3-4）

次ページの地図と会場への交通を参照してください。

○定員

150名

○受講料（消費税含む）

一般5,500円，教員5,000円，気象学会員・学生4,500円

参加申込受付後，返信にて郵便口座をお知らせしますので，そちらに受講料の振込をお願いします。受講料の振込が確認され次第，テキストと受講票を送付します。

○参加申込方法

以下に示した必要事項のみ記入して，往復葉書または電子メール（次項参照）にてお申し込みください。受付次第，受講の可否を返信します。なお，往復葉書の場合は復信に宛先を必ず記入し，電子メールの場合はSubject（件名）を必ず「夏季大学参加希望」としてください。

- 1 「夏季大学参加希望」
- 2 住所・氏名
- 3 連絡先（電話番号等，平日日中に連絡がつくこと）
- 4 テキストの送付先（2と異なる場合のみ）
- 5 その他

学生・教員の方は所属を，気象学会員の方は「気象学会員番号」を明記してください。

○参加申込先

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-4

気象庁内 日本気象学会事務局

夏季大学申込用電子メールアドレスは，日本気象学会ホームページ（<http://wwwsoc.nii.ac.jp/msj>）のお知らせに掲載する予定です。

○申込締切

平成17年7月1日（金）必着。定員は150名です。定員に達した場合は受講をお断りする場合がありますので，ご了承ください。

○お問い合わせ先

気象庁内 日本気象学会事務局

Tel：03-3212-8341(内線2546)，Fax：03-3216-4401

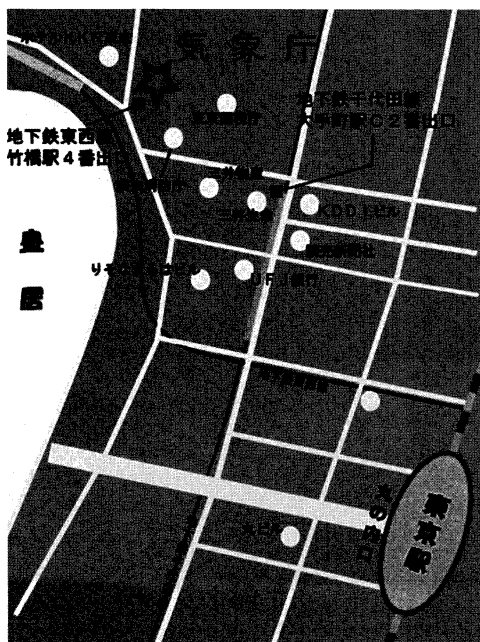
●テキストのみ希望される方へ

葉書に，①夏季大学テキスト希望②必要部数③送付先の住所・氏名を明記し，参加申込先にある宛先に申し込み下さい。テキストと振替用紙をお送りします。代金は1部1,000円（送料込）です。刊行部数が少ないので早めにお申し込み下さい。

第39回夏季大学「新しい気象学」～台風・集中豪雨～ 講義時間表

8月5日 (金) 10:00～11:30	台風・集中豪雨の災害史 饒村 曜 和歌山地方気象台	災害原因は様々で時代が変わりますが、災害で起きることは似ており教訓は生きます。災害経験を、過去や他の地域のこと、違う種類のことではなく、共通の経験として防災対策に生かす観点で、過去の台風や集中豪雨を振り返ります。
8月5日 (金) 13:00～14:30	2004年の台風と集中豪雨 日野 修 気象庁天気相談所	2004年には、新潟・福島豪雨、福井豪雨や上陸した台風により、土砂災害や洪水害、暴風害、高潮害など、多くの災害が発生しました。講演では、それぞれの事例について特徴的な気象概況と災害発生状況について説明します。
8月5日 (金) 14:45～16:15	集中豪雨のメカニズムと予測 吉崎 正憲 気象研究所予報研究部	豪雨・豪雪をもたらすものはメソ対流系と呼ばれる水平スケール100 kmの積乱雲群です。その発生や発達メカニズムを理解するために、本講義では、簡単な設定のレーリー対流から、水蒸気の相変化を含む湿潤対流、雲水から雨水へ成長する雲物理、大規模場と積乱雲の相互作用、最近のモデル、等を概観します。
8月6日 (土) 10:00～11:30	台風のメカニズムと予測 栗原 宜夫 地球環境フロンティア研究センター	台風の中はどうなっているのか、そこで何が起きているのか？これに答えながら、弱い熱帯低気圧として誕生してから、最盛期を経て、衰弱にいたる台風の生涯の各時期について、予測の鍵を探ります。
8月6日 (土) 13:00～14:30	台風・集中豪雨と気象情報 永澤 義嗣 気象庁予報部予報課	気象庁は、最新の観測技術・予測技術に基づき、また気象現象の激しさや災害発生の危険度に応じて、警報や台風情報など様々な防災気象情報を発表しています。これらは、各種メディアやインターネットを通じて市民に伝えられています。これらの情報について、その内容や効果的な利用方法を解説します。
8月6日 (土) 14:45～16:15	台風の長期変動とその影響予測 松浦 知徳 防災科学技術研究所	温暖化したとき台風活動がどうなるのか、ENSOのとき台風活動がどうなっているのか、それによって台風災害はどうなるのか、これらは我々にとって重要な関心事です。台風の長期変動の実態と影響予測技術の現状をお話します。
8月7日 (日) 10:00～12:00	<実習>衛星画像を用いた台風解析 西村 修司 気象衛星センター	観測データの少ない海洋上では、衛星による台風観測がとても有効な手段です。本講義では、衛星画像による台風の中心位置と強度の推定について解説を加えながら実演を行い、受講者に台風解析を体験してもらいます。

気象庁案内図



気象庁への交通

- 東京メトロ 竹橋駅 (東西線)
4番出口 徒歩約2分
- 東京メトロ 大手町駅 (千代田線など)
C2番出口 徒歩約5分
- JR 東京駅 (山の手線など)
丸の内北口 徒歩約20分